



風かおる
人が輝き
躍動するまち

とままえ

2

No. 666



まちひと百景

元担任の先生と一緒に

1月8日(日)に行われた平成29年成人式には、両地区の小学校、中学校の担任の先生が参加し、新成人にお祝いの言葉を述べた。

今回参加した先生方も、ランドセルや制服姿だった教え子たちが着物やスーツに身を包み、元気な姿で再会できたことが笑顔あふれる表情から感じ取ることができた。

- 平成29年成人式・・・ 2
- とままえ町民劇ほか・・・ 3
- 出産祝金ほか・・・ 4
- 苫前町消防団出初式ほか・・・ 5
- 健康ばんざい・・・ 6
- 後期高齢者医療ガイド・・・ 7
- 国民年金・・・ 8
- 学びの広場・・・ 9
- 住まいる情報・・・10～11
- 議会だよりNo.106・・・12～19
- ちびっこギャラリー・・・20

苫前町
議会だより
合併号

まちの人口

人口/3,240人(男/1,544人:女/1,696人)
世帯数/1,569世帯 (1月31日現在)

社会人としての自覚を！

—新成人おめでとう—

平成29年 苫前町成人式



1月8日(日)午後1時から公民館において平成29年成人式が挙行された。

今年の対象は男女あわせて26名のうち、男性が9名女性が6名の計15名が新たに大人の仲間入りをはたした。

色とりどりの振り袖やスーツ、羽織・袴に身を包んだ新成人が受付を済ますと、久しぶりに再会した友人と笑顔で談笑する姿や友人同士で写真撮影する姿が見られた。

式辞で教育委員会の池田民治職務代理者が「昨年はオリンピックや日本ハムファイターズの優勝、コンサドレ札幌のJ1昇格と明るいニュースがあった反面、熊本地震などの自然災害もありました。被災した人たちが前向きに復興に向けあきらめずに前進する努力をしていることを忘れないでください。これまで苫前町で学んだ多くのことを行動力を持って、激動する社会を乗り越えてほしい。皆さんにはその生き抜く力があると思います」と新成人にエールを送った。

新成人を代表し、佐藤翔太さんと清水理緒奈さんが「社会の一員としてのきまりを守り、互いに助け合うことを心に銘記し、責任ある行動のもと努力し

続けます」と力強く宣誓を行なった。

森利男町長は「成人式は、自立した大人の仲間入りを自覚する日でもあります。今日の皆さんがあるのは、ご両親が地域の中で一生懸命に愛情を持って育てて来たことを忘れないでほしい。今日は感謝の気持ちをこ両親を含め家族に贈っていたきたい」と、阿部俊一町議会議長も「権利・義務を持った大人としての自覚を深める大切な日。楽しいこと、うれしいことと同時に悲しいこと、つらいこともある。1人の力では限界がある。絆や感謝の気持ちを大切に、自分の将来を信念にもとづき前進してほしい。21世紀の若人として健全な社会の原動力となることを祈願する」と祝辞を述べた。

成人意見発表では今春に短大を卒業し実家の農業を継ぐという杉野雅人さんが「小中学校は野球部在籍していた。部活動終了後には自分の家が農家だったため手伝いをしてきたが、そのうち農業に興味を持ちだした。高校を卒業した今は親元を離れ大学に通っているが、今年3月に卒業する。将来は親のような立派な農業者になれるよう頑張りたい」と述べた。また、保育の勉強を続け保育士として働く

田口萌乃さんは「自分のやりたいこと興味を持って来たことはやってきた。特に小・中学校の時は、女子の少ない中でもかけがえない友達ができたことは自分にとっての大事な宝である。また、このような環境の中でも不自由なく生活できたのは先生ほか自分たちを支えてくれた地域の皆さんだと感謝している。自分は現在保育の勉強をするため短大に通っている。4月より新社会人としてスタートするが不安もたくさんある。20年間愛情を持って育ててくれた両親に感謝する」とこれからの意気込みと決意を述べた。

この成人式に当時新成人を受け持った学校の先生も参加、教え子を目の前にお祝いメッセージを送ると、笑顔を浮かべたり、涙ぐむ新成人も見られ、式典終了後も先生や友人と交え、談笑する姿が見られた。

田口萌乃さんは「自分のやりたいこと興味を持って来たことはやってきた。特に小・中学校の時は、女子の少ない中でもかけがえない友達ができたことは自分にとっての大事な宝である。また、このような環境の中でも不自由なく生活できたのは先生ほか自分たちを支えてくれた地域の皆さんだと感謝している。自分は現在保育の勉強をするため短大に通っている。4月より新社会人としてスタートするが不安もたくさんある。20年間愛情を持って育ててくれた両親に感謝する」とこれからの意気込みと決意を述べた。



戦争当時の様々な人間模様を描いた作品 ～とままえ町民劇「あまんじゃく」公演～

とままえ町民劇実行委員会(佐藤映里香代表)による第9回目の公演となる「あまんじゃく」が12月11日(日)に上演され、町内外より約300名が来場した。

演出に岩村直幸さんの他、小平町からの出演も含め15名の役者が出演、現代と戦争の時代を交錯させながらうまく演じきっていた。

物語は、戦争という極限の状態の中で、何が国のためなのかを考えさせられるもの。非国民、卑怯者と言われないために当時多くの国民は口に出さず堪え忍んだ。それでいいのかと一石を投じた内容である。

町民劇にはじめて参



加した赤田理乃さん(苫前商業高校1年)は「出身が札幌で中学生の時に劇団に所属していたので、町民劇には興味があった。本番では練習どおり演じられた」と語った。また、同級生の川口七星さん(苫前商業高校1年)は「演劇ははじめての経験で、今回の町民劇で演じることの難しさを痛感している。本番では緊張したけど練習したことを全部出した」と語った。

カーテンコールでは会場から大きな拍手が送られたほか、観客を見送る「送り出し」でロビーに並んだ出演者に花束を手渡したり、握手したりなどして感動を伝えていた。



コミュニティスクール研修会 ～導入のためのポイントなどを学ぶ～

12月12日(月)苫前中学校体育館において、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)研修会が開催された。

この制度は、保護者や地域住民が学校運営に参画して意見を述べて行く制度で、開催の冒頭、池田文敏教育長からは「北海道、苫前町、学校運営協議会が主体となって主催するもの。新たな制度を本町でも平成29年4月より開設を目指しているため、完成度を高めていきたい」と述べた。

その後、北海道大学の出口寿久学務部長より「地域とともにある学校づくり」コミュニティ・スクールと地方創生」と題して講演が行われ、出席した教育関係者は新たな制度の仕組みについてメモを取っていた。



苫前保育園の新園舎が完成



社会福祉法人苫前福祉会(坂川資樹理事長)の苫前保育園新園舎が完成し、12月13日(火)入園式が行われテープカットや園児によるヨサイが披露され完成を祝った。

坂川理事長は挨拶で「子どもたちの安全・安心のためご尽力をいただいた役員・苫前町・工事関係者の皆さんに感謝したい」と述べた。

来賓の森町長は「理事長や役員各位の皆さんに大変なご尽力をいただいた。耐震をしっかりと安心してください。管内のモデルになるような特徴を活かした運営をお願いしたい」と祝辞を述べた。

白熱の札取り合戦繰り広げる ～苫前商業高校第30回カルタ大会～

苫前商業高等学校(金子義之校長)の「第30回カルタ大会」が12月16日(金)同校体育館で行われ、白熱の札取り合戦を繰り広げた。

同学校では、百人一首を学ぶことで、その時代の文化や歴史を学ぶとともに、全校生徒の親睦を深めることを目的として始まった行事で今年で30回記念大会となった。

苫前北斗歌留多クラブの協力を受け、20チームが出場。予選リーグ、決勝リーグが行われた。見事に優勝した2年生の佐藤未悠さんは「昨年は決勝まで進めたが、残念ながら負けてしまった。今年こそはと思っていたので優勝できてうれしい」と笑顔で語った。



森町長より2組に出産祝金100万円が手渡される



平成27年7月より住みよいまちづくりの一環として実施している出産祝金交付制度で、このほど初めての第4子、出産の祝金100万円が、12月17日(土)に森町長から2家族に贈られた。

第1号となった苫前在住の太田恭平、恵さん家族に祝金目録が手渡され、森町長からは「おめでとうございます。これからの健やかな成長をお祈りしています」と延べた。太田夫妻は「子どものために使います」と笑顔で応えた。

続いて第2号となった苫前在住の大矢根諒、祥恵さん家族にも祝金目録が手渡れた。大矢根夫妻からは「家族が増えたので、車を大きくしたい」と述べていた。

新しい苫前小学校はどのようになっているの? ~新校舎見学会~

苫前小学校(堀井理校長)の新校舎完成に伴い、12月20日(火)に児童生徒による見学会が行われた。

同小学校は、木質ペレットを燃料にした暖房や、自然採光で廊下を明るくする吹き抜けの構造など、環境に配慮した建物となっている。

体育館や教室を見学した児童からは「すごい変わった。木でつくられていて温かく感じた」「図書室の本が今よりもたくさん置ける」「体育館に2階ができた」など新しくなった校舎にワクワクした気持ちになったようである。



勉強終わらずぞ! ~冬休み学びの寺子屋が始まる~



児童・生徒が休み中に苦学科目の克服や家庭学習の習慣化を目的とした「冬休み学びの寺子屋」が12月26日~28日の2日間、苫前地区はとままえ温泉ふわつと、古丹別地区は町公民館で開催され、両地区の小中学生あわせて延べ230名の参加があった。

池田教育長は開催に先立ち「冬休みを有意義に過ごすために、まず自分で考えて企画して段取りを組んで進める事が大事である」と挨拶した。

この後、学校の宿題プリントや市販の問題集など各自持ち寄った教材に取り組み、夏休み同様に学校教育支援員2名と小学校・中学校の教員数名がサポートし、参加者は問題の解き方のヒントなどを教えていた。

景気をつけよう! 大もちつき大会 ~今年1年を締めくく~

森町長からは「今年1年の良いこと悪いことをこのもちつき大会で一掃する。来年はすばらしい1年でありますことを願っている」と挨拶した。

その後、子ども向けのもちつき体験を実施し、ついたもちは鏡もちとなった。参加者にはお雑煮が振る舞われ、最後はもちまきを實施。会場は大いに盛り上がりを見せた。



今年で2回目の実施となる苫前町商工会主催の大もちつき大会が、12月28日(水)とままえ温泉ふわつとホールで開催された。同実行委員会の渡部和人(委員長)からは「大もちつき大会が無事に挙行されること関係者各位に感謝します。まずは何よりも景気がよくなりますように祈りましょう」と述べた。

決意も新たに初出動 ～苫前町消防団・苫前救難所出初式～



苫前町消防団(瀬川信昭団長)の出初式が1月5日(木)に北留萌消防組合苫前支署前で実施され、団員46名が参加して行われた。

寒風の中、服装点検、閲団などが行われ、新年の決意が団員の表情に表れていた。

とままえ温泉ふわつとに会場を移動し行われた屋内式で森町長は式辞で「いつ、どこで異常気象に見舞われるか分からない。今後とも防災意識を高め積極的に取り組んでいきたい」と挨拶した。

1月6日(金)に苫前救難所(川村信介所長)の出初式が北るもい漁協苫前支所で18名の団員が集まり開催され、救命索発射装置(もやい銃)の発射訓練が行われ整列・点呼、団長への人員報告などが行われた。

会場をとままえ温泉ふわつとで行われた屋内式では、川村所長が「平成16年以降海難事故は発生していない。他の漁業者の模範となるようこれから避難訓練等を行う予定である。今後も無事故を続けていくため、留萌海上保安部など関係機関の指導を賜りたい」と挨拶した。



全道小学生バレーボール選抜大会で古丹別ウイングスが3位入賞



バレーボール少年団古丹別ウイングス(古丹別小学校6年檜森香月主将)が、1月7～9日、江別市で開催された第33回北海道小学生バレーボール選抜優勝大会に出場し、男女混合の部で見事第3位に輝き、1月18日(水)役場を訪問し森町長に結果報告をした。

森町長は「新聞等で結果は知りました。よく頑張ってくれました。おめでとうございます。これからも上位を目指せるチームだと思うので頑張ってください」と激励した。

主将の檜森さんは「結果を出せたことはよかった。やりきった感があった」と述べていた。

とままえ落語会で寄席気分を満喫 ～柳家さん喬さんほか2人～

1月23日(月)に苫前町公民館でとままえ舞台鑑賞友の会(松岡満雄会長)が主催のとままえ落語会が約90名の来場で開催された。

出演は、この時期にお馴染みとなった柳家さん喬師匠、ゲストとして林家つる子さんと女性三味線漫談家の林家あずみさんの3人が出演。

まず、つる子さんが「やかん」、さん喬師匠による「按摩(あんま)の炬燵(こたつ)と幾代(いくよ)餅」の2席、中入りの後にあずみさんの「三味線漫談」が披露された。

来場者は3人の芸に引き込まれ寄席気分を満喫していたようだった。

